

# 問題解決能力を育成する小学校社会科学習の研究

－「四日市モデル」に基づいた授業づくり－

2015/3

四日市市教育委員会 教育支援課

## はじめに

第2次四日市市学校教育ビジョンの取り組みも、平成23年度の開始から4年が経過し、新たに第3次のビジョンを策定する時期となりました。

現学校教育ビジョンでは、『生きる力』『共に生きる力』をはぐくむ』を基本理念に、「めざす子どもの姿」である「輝く よっかいちの子ども」の実現をめざしてきました。そのために、「段差のない教育」「途切れのない支援」「家庭・地域との協働」の3つの視点を基盤として、「問題解決能力の向上」「豊かな人間性の育成」「特別支援教育の充実」「教職員の資質・能力の向上」等、8つの重点目標を掲げ取り組んできました。

教育支援課では、学校教育ビジョンの実現に向けて、教職員の資質・能力の向上をめざして取り組みを進めてきました。

とりわけ、教職員一人ひとりが、ライフステージに応じた専門性・多様な指導技術・幅広い教材研究・深い子ども理解等の教師力を身につけるため、「教師力向上研修」を用いた自己分析をもとに、研修の充実を図ってきました。

また、昨年度市内小中学校に「問題解決能力向上のための授業づくりガイドブック」を配付し、これを活用して問題解決能力の育成をねらう授業改善にも取り組んできました。確かな学力を育むためにも、今後もさらに力を入れて、この取り組みを進めていきます。

これらの取り組みに加えて、本市の課題である「言語活動の充実」「不登校児童生徒支援の充実」及び前述した「問題解決能力の向上を図る学習の推進」を本年度研究課題として設定し、授業実践や調査・研究を進め、その成果をここに研究調査報告書としてまとめました。これらの研究成果が、教育課題の解決に向けた学校・園の研修・研究において活用されるとともに、日々の教育実践に役立つことを期待します。

最後に、本課の研究調査を進めるにあたって、御指導・御助言いただいた国立教育政策研究所初等中等教育研究部の松尾知明総括研究官、並びに研究協力員をはじめとして調査・実践面で御協力いただいた学校等の関係者の皆様に心から感謝の意を表します。

平成27年3月

四日市市教育委員会教育支援課  
課長 田中 重行

— 目 次 —

I	研究主題	1
II	主題設定の理由	1
III	研究の目的	2
IV	研究の内容・方法	
	1 研究の内容	2
	2 研究の方法	9
	3 研究の計画	10
V	結果と考察	
	1 「四日市モデル」による授業実践の結果と考察	10
	2 検証をもとにした授業プランの提案	14
VI	研究のまとめ	
	1 研究の成果	14
	2 研究の課題	15
	[引用文献・参考文献]	20
	[資料]	21

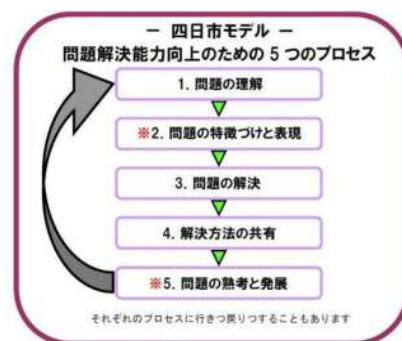
## I 研究主題

### 問題解決能力を育成する小学校社会科学習の研究 －「四日市モデル」に基づいた授業づくり－

## II 主題設定の理由

21世紀は「知識基盤社会」の時代と言われ、変化の激しい社会を生き抜くためには、問題解決能力がより必要になってきている。そのため、学校教育の重点も、「何を知っているか」から知っていることをもとに「何ができるか」への転換が求められている。

本市はめざす教育の方向性や考え方を示す「第2次四日市市学校教育ビジョン」(2011)においても、問題解決能力の向上を重点目標の一つとして位置づけている。そして、その目標の実現をめざすため、問題解決能力を高められるような指導内容・方法について研究し、その成果として「問題解決能力向上のための授業づくりガイドブック」【資料1】(以下「ガイドブック」)(2013)を発行した。「ガイドブック」では、問題解決能力向上のための5つのプロセスからなる「四日市モデル」【図1】を提示している。



【図1】 四日市モデル

一方、本研究で扱う社会科について、北(2011)によれば、「教科として誕生して以来、これまで問題解決的な学習が展開されてきた」(p.9)と述べられている。では、実際、社会科における問題解決的な学習の実現状況はどうなっているのだろうか。このことについて、国立教育政策研究所が行った「特定の課題に関する調査(社会)」(2007)での「問題解決的な学習の実現状況に関する調査」では、次のように報告されている。「本調査のペーパーテストと質問紙調査との相関をみると、日々の授業において問題解決的な学習を行っている場合の方が、そうでない場合よりも通過率<sup>1</sup>が高い傾向がみられた。一方、学校質問調査の結果をみると、『問題把握、資料活用、思考・判断、表現といった流れの学習』を行ったと回答した教師は、全体の半数強であった」(p.65)。つまり、問題解決的な学習を行うことが問題解決能力の向上に有効であることを示唆するとともに、問題解決的な学習が十分には行われていない現状を示していると言える。このような現状から、問題解決的な学習を行うための社会科の授業づくりと、その授業による問題解決能力を育成する効果を示していく必要があると考える。

「ガイドブック」では、問題解決能力向上のための「四日市モデル」に基づく授業づくりを示し、算数・数学科、国語科の実践事例をあげているが、社会科の事例はなく、問題解決能力

<sup>1</sup> この調査では、次のように説明されている。「調査実施児童生徒数(有効な解答(回答)を行ったものとして、集計対象とした児童生徒の人数。無回答も含まれる。)から、正答又は準正答いずれかを解答した児童生徒数の割合の数値を『通過率』とした」(P.8)

を育成する効果についても明らかにされていない。

そこで、本研究では、この「四日市モデル」に基づいて小学校社会科の授業を行い、検証するとともに問題解決能力を育成する小学校社会科の授業づくりを進めていくことを考えた。

### Ⅲ 研究の目的

本研究は、「四日市モデル」に基づき、問題解決能力を育成する小学校社会科の授業づくりを提案することを目的とする。

### Ⅳ 研究の内容・方法

#### 1 研究の内容

##### (1) 小学校社会科学習における「四日市モデル」の活用

###### ① 小学校社会科における問題解決的な学習

問題解決的な学習について、「小学校学習指導要領解説社会編」(2008)では、児童一人一人に社会的な見方や考え方が養われるように工夫する必要があるとし、児童一人一人が観察、調査したり、基礎的資料を効果的に活用したり、調べたことや考えたことを表現したりできるような工夫を求めている。しかし、実際には「子どもたちに問題を作らせ、調べさせ、まとめさせ発表させる」という形式的な学習が行われ、事実だけを調査する活動、それを発表する活動に力点を置いた授業が見られる。

形式的な学習ではなく、社会的な見方や考え方を養う問題解決的な学習を行うためには、次の2つの場면을充実させながら、経験を積ませる必要があると考える。

###### ○「見通しを持つ」場面

社会科では、調査・見学・体験などによる調べ活動を行うことが多い。調べる内容と方法が問題の解決につながるものであり、「何を、どのように調べたらよいか」が明確であることが重要である。問題解決のための調べる内容と方法が明確になることが、問題解決のための見通しを持つことができた状態と言えるだろう。子どもが、問題解決のための見通しを持つことによって主体的な学習を行うことができる。

###### ○「新しい問題を見いだす」場面

学習問題が解決された時点で、解決して得られたことや解決方法の正しさを確認する。この確認によって、わかったことが何かを明確にできる。それと同時にまだわか

らないことに気づいたり，新たな疑問などを感じたりする。わからないことや疑問から新しい問題が見いだされる。

②「四日市モデル」に基づく問題解決的な学習の充実

「四日市モデル」では，問題解決能力を向上させるために，子どもたちが持つ既存の知識・技能を活用して，問題を理解し，解決方法を導き，実行するための5つのプロセスでの学習を必要と考えている。その5つのプロセスと概略【表1】を示す。（詳しくは【資料1】参照）表中の※印の「2 問題の特徴づけと表現」「5 問題の熟考と発展」のプロセスは本市が重点を置いているプロセスである。

【表1】 5つのプロセスと概略

プロセス	各プロセスの概略
1 問題の理解	問題と出会い，問題を認識し，既存の知識と比較したり，関連づけたりする中で何を答えるのかを理解するプロセス
2 問題の特徴づけと表現 ※ （「見通しを持つ」場面）	問題解決のために情報を収集したり，整理・分析したりして，解決のための見通しを持つプロセス
3 問題の解決	これまでに考えた方法や見通しで問題を解決するプロセス
4 解決方法の共有	解決して得られたことや解決方法を他の人と交流し，自分の考えや解決方法を見直したり，深めたりするプロセス
5 問題の熟考と発展 ※ （「新しい問題を見いだす」場面）	解決して得られたことや解決方法の正しさを確認し，さらに新しい情報を求めたり，次の問題に活用したりするプロセス

（ ）は，問題解決的な学習で充実させたい場面

このプロセスの中で，子どもたちは，新たな発見と新たな問題を見いだしながら，学習を進めていく。そのときに，子どもたちが新しい知識・技能，思考力・判断力・表現力を習得し，問題解決能力を向上させていくには，教師が，一つ一つのプロセスごとに，適切な指導をすることが必要となる。以下に，前項で示した充実させたい場面と「四日市モデル」と関連づけて説明する。

○「見通しを持つ」場面とプロセスとの関連

「見通しを持つ」場面は，「四日市モデル」の「2 問題の特徴づけと表現」のプロセスにあたる。

このプロセスでは，問題を解決するために「何をすればよいか」を子どもが明確に持てるようにする。そのために，例えば，さまざまな情報を比較・分類・関係づけなどをして整理する，解決のための予想を立てる，解決方法を考えるなどの活動をしな

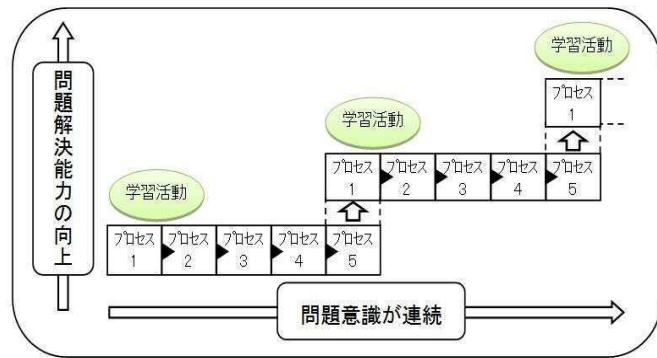
がら、解決に必要な情報かどうか、予想の根拠は何か、この解決方法で解決できるのかを思考、判断させる。そして、その思考や判断を表現させ、交流させる。

○「新しい問題を見いだす」場面とプロセスとの関連

「新しい問題を見いだす」場面は、「四日市モデル」の「5 問題の熟考と発展」にあたる。

このプロセスでは、解決して得られたことや解決方法を振り返らせる。そうすることによって、解決して得られたこととともに解決方法の正しさもはっきり認識させることができる。子どもたちが解決方法の正しさを確認し問題解決のプロセスを認識することで、その解決方法を次の問題解決に生かすことができる。

視野が広がったり考えが深まったりするような新しい問題を、子どもが得られたことをもとにして見いだすことができるように、教師は、工夫をしたり、問題解決の方法を追体験できるようにつなげたりする。そうすることによって、【図2】のように、得られたことをもとに新しい問題が見いだされることで単元を通して問題意識が連続し、問題解決のプロセスを繰り返すことになる。そして、問題解決を繰り返しながら、問題解決能力が向上していくと考えられる。



【図2】問題意識が連続する単元

(2) 「四日市モデル」に基づく小学校社会科の授業づくり

小学校社会科第4学年「わたしたちの町を守る防火の仕組み」において、「四日市モデル」に基づく授業のつくり方を考え、授業実践及び効果検証を行う。その際に考えたつくり方を以下に示す。

① 単元のつくり方

ア 単元の目標をつくる

本単元における目標及び内容は、学習指導要領に次のように書かれている。

[目標](1)地域の産業や消費生活の様子、人々の健康な生活や良好な生活環境及び安全を守るための諸活動について理解できるようにし、地域社会の一員としての自覚をもつようにする。

[内容] (4) 地域社会における災害及び事故の防止について、次のことを見学、調査したり資料を活用したりして調べ、人々の安全を守るための関係機関の働きとそこに従事している人々や地域の人々の工夫や努力を考えるようにする。

ア 関係機関は地域の人々と協力して、災害や事故の防止に努めていること。

イ 関係の諸機関が相互に連携して、緊急に対処する体制をとっていること。

これより、本単元では、「消防署や消防団は火事の防止と緊急事態に対処する体制をとっていること」「消防署は消防団などの関係機関と連携して、安全な生活を送れるように努めていること」を子どもが理解し、「地域社会の一員として自分自身ができることを考え行動する」子どもの姿をねらう。

したがって、本単元での目標を「消防署や消防団などの地域の人々が、火事から地域を守る工夫や努力をしていることを子どもが理解し、地域の一員としての自覚をもち安全に生活をしようとする」と設定した。

#### イ 学習問題をつくる

単元を通して子どもが問い続ける、単元を貫く学習問題を設定する。この問題から、子どもたちが実際に学ぶ小単元の学習問題をつくる。本単元では、単元を貫く学習問題を「わたしたちの町を守る防火の仕組みは、どうなっているのだろうか」とし、小単元ごとに学習問題をつくる。

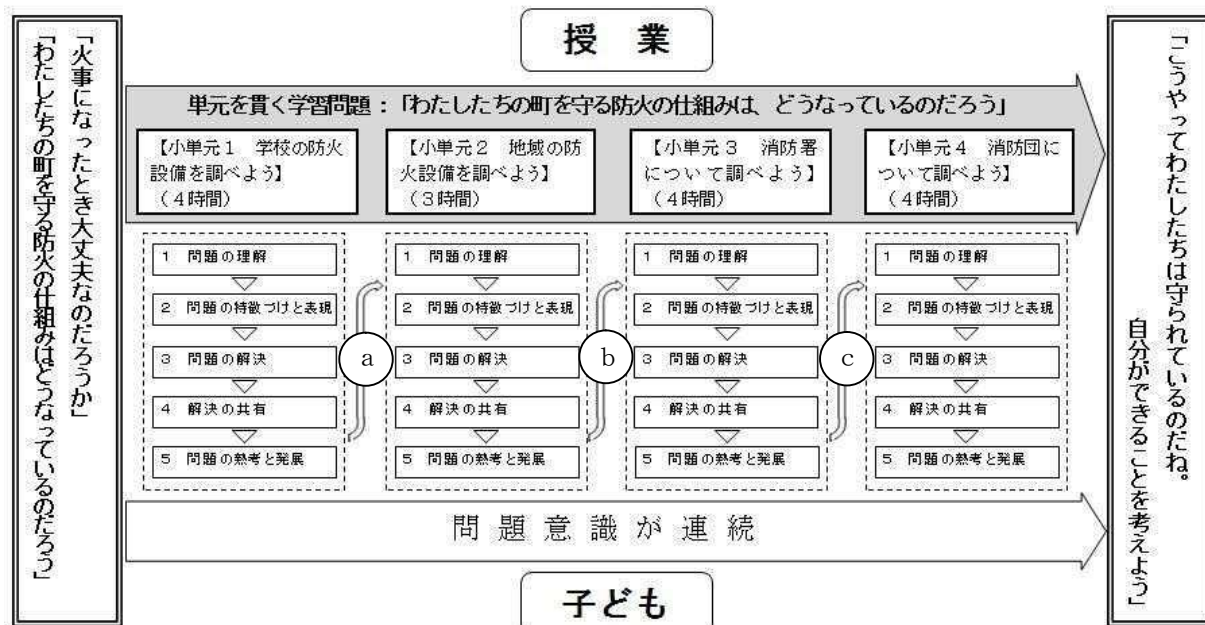
#### ウ 学習内容を配置する

小単元の学習問題に、どのような内容をどの順に配置するかは、子どもの実態（「どのような学習に興味・関心があるのか」「どのような学習経験があり、何ができるのか」など）と地域性から考える。

本単元では、子どもが興味・関心を持ちやすい身近な地域の題材を扱った。そして、調査活動や人との出会いの場面を多く取り入れている。さらに、その題材の中から自分に身近な学習内容の順に、①学校の防火設備、②地域の防火設備、③学校近くにある消防署分署、④校区の消防団と配置することを考えた。この順にしたことにより、学校の防火設備の調査活動を学級で行った経験が、次の地域の防火設備を個人で調べる活動に生かせると考えた。

単元の目標に「地域の一員としての自覚をもち安全に生活をしようとする」ことを掲げている。そこで、自分たちと同じ校区に住む消防団長の思いについて考えることを通して、自分ができることを考えさせるため、消防団の学習については最後に位置づけた。よって単元は【図3】のように計画した。





a : b : c にて、新しい問題を見いだす

【図3】「わたしたちの町を守る防火の仕組み」の単元図

図3のように単元を構成したが、実際の授業では教師の予想と異なる反応を子どもが示す場合もある。単元を計画するときには複線的に考え、子どもの反応に合わせて学習を進めることが、子どもの主体的な学習を支えることになる。

#### エ 学習問題のつながり

子どもの問題意識が連続するように、「5 問題の熟考と発展」において新しい問題を見だし、次の学習問題へつなげる。本単元では、以下のように考える。

(上段：学習してわかったこと 下段：新しい問題)

【図3】 a 学校の防火設備が緊急事態に対処できるものであることがわかった。

→自分たちが住んでいる地域の防火設備はどうなっているのだろうか。

【図3】 b 地域で火事が起きたとき、地域の防火設備は早く火を消せるように想定して設置されていることがわかった。

→防火設備を使う人は、どんな工夫や努力をしているのだろうか。

【図3】 c 消防署の人が火事を素早く消すための工夫や努力をしていることがわかった。

→消防署の人がすぐに来られない場合に、地域の人々（消防団）はどうしているのだろうか。

## ② 5つのプロセスの展開

具体的な展開事例を示して、5つのプロセスを説明する。

ここで取りあげる事例は小单元1であり、学校の防火設備について学習する場面である。(全单元の展開事例については【資料2】参照)

### 「1 問題の理解」

【新たな事象や既存の知識から問題を発見し、問題を理解する】

#### ○教師○

- ・火事の怖さが理解できる資料を提示し、子どもから疑問点や経験を出させる。

#### ○子ども○

- ・火事の怖さを理解し、「わたしたちの町を守る防火の仕組みは、どうなっているのだろう」という单元を貫く学習問題を見いだす。
- ・子どもたちの思いをもとに学級全体で学習問題を設定する。

学習問題「学校は、どこで火事が起きてもすぐに消せるようになっているか」

### 「2 問題の特徴づけと表現」

【学習問題を解決するために、「何を、どのように調べたらよいか」と解決のための見通しを持つ】

#### ○子ども○

- ・学校の防火設備として、どのようなものが、どこに、どれだけあるのかなどの調べる内容とその調べる方法を考える。
- ・自分が考えた解決のための見通しを学級で交流する。

### 「3 問題の解決」

【「2 問題の特徴づけと表現」で立てた解決するための見通しをもとに問題の解決をする】

#### ○子ども○

- ・校舎図をもって学校の防火設備を調べる。
- ・調べた結果と結果からわかることを考えて、学習問題に対する結論をノートに書く。

### 「4 解決方法の共有」

【学習問題に対する結論を交流し、自分の考えを深める】

#### ○子ども○

- ・防火設備を調べた結果と、結果からわかることを交流する。

「学校の消火器を調べたら、消火器がどの階にも置いてあったから、学校のどこで火事が起きてても対処できるようになっていると思う」

「給食室の消火器の数を数えたらたくさんあったから、特に火事になりやすい火を使うところにたくさん消火器を置く工夫がしてあると思う」

#### 「5 問題の熟考と発展」

【解決して得られたことを確認し、視野を広げて考え、新しい問題を見いだす】

##### ○教師○

- ・これまでの学習で学校の防火設備の工夫が明らかになったことを確認する。

##### ○子ども○

- ・学校の防火設備の工夫が明確になったことから、地域の防火設備がどうなっているのだろうかという新しい問題を見いだす。

学習問題「家で火事が起きてても、すぐに消せるようになっているか」

### ③ 充実させたい2つの場面での手だて ～小単元1を例にして～

#### ○「2 問題の特徴づけと表現」の手だて

子どもが解決のための見通しを持つために、自分の考えを書いたり、他者と交流をしたりする。そのために、本単元でこの場面の具体的な手だてとして、「予想」「調べる方法」の観点で、ノートに書いたり、書いたことを交流したりすることを行う。

教師が、子どもが何を考えているのかを把握するために、ノートに書かせることは有効である。子どもの考えを把握することが、学習問題の再確認や既存の学習を振り返る必要があるかどうかの判断材料となる。また効果的に友達の考えを交流させることにつながる。

さらに、子どもが見通しを持つために、白地図を利用する。本単元では、学校の防火設備を調べる活動を円滑にするために、校舎図を用意する。このことにより何を調べ、どのように結果を記したらよいかが明確になり、自分の力で学習問題を追究・解決する学習が可能になる。

#### ○「5 問題の熟考と発展」の手だて

解決方法や、わかったことを振り返る場面を設定する。振り返りでは、個人でノートに書かせたり、話し合いの場を持ったりする。子どもたちが学んでわかったことを整理することで、さらに調べてみたいことがはっきりする。本実践では、小単元1にて教師により、自分たちの学んだことは学校の設備であることを確認する。これによ

り学校以外の防火設備はどうなっているのだろうと調べる場所を広げる。そのことにより、子どもたちが新しい問題を見いだすことにつながる。

また、写真などの資料を用意し新たな事象に出合わせる手だても有効である。これまで学習してきたことと新たな事象を比較したり関連付けたりして子どもの疑問などを生み、新しい問題を見いだす。

## 2 研究の方法

### (1) データの収集と分析

#### ① 調査対象

四日市市内の小学校に研究を依頼し、4年生の1学級28名を調査対象として研究を進める。「わたしたちの町を守る防火の仕組み」の授業の指導を研究協力員が行い、授業の様子の記録を研修員が行う。

#### ② 本単元の効果を検証する

##### ア 見通しを持つことについて

児童が解決のための見通しを持たたかどうかの評価について「予想」「調べる方法」の2つを観点として検証する。

##### a ルーブリックによる評価

ルーブリックとは、子どものパフォーマンスの質を評価するための評価基準表のことである。ルーブリックを作成し、児童が書いた記述をもとに評価する。具体的な場面として、小単元1と小単元2の見通しを持つ場面での評価の変化をみる。(検証に使ったルーブリックについては【資料3】を参照)

##### b 児童の様子

授業やノートの記事から児童の様子の変化をみる。

##### イ 新しい問題を見いだすことについて

授業記録より、新しい問題を見いだす場面における児童の様子から教師の手だての効果を検証する。

ここでは、次の2つの場面で検証をする

- 小単元1 (学校) → 小単元2 (地域)
- 小単元3 (消防署) → 小単元4 (消防団)

## (2) 検証をもとにした授業プランの提案

小学校社会科第4学年「わたしたちの町を守る防火の仕組み」の実践での検証を生かし、別の単元である小学校社会科第4学年「ふせごう，交通事故や事件」での授業プランを提案する。

## 3 研究の計画

月	本研究に関する計画	実施する内容・研究協力校との連携
4	課題研究打ち合わせ会	
5	第1回課内研究会議 (第1回国研指導)	研究協力校への挨拶とお願い
6	第2回課内研究会議	授業実践「わたしたちの暮らしを支える水」
7	第3回課内研究会議 (第2回国研指導)	
8		研究協力員と授業の準備
9		
10	第4回課内研究会議	授業実践「わたしたちの町を守る防火の仕組み」
11		
12	第5回課内研究会議 (第3回国研指導)	実践の検証及び授業プランづくり「ふせごう，交通事故や事件」
1	第6回課内研究会議 (第4回国研指導)	
2	第7回課内研究会議	

## V 結果と考察

### 1 「四日市モデル」による授業実践の結果と考察

問題解決能力を育成するための問題解決的な学習を行うにあたり，子どもが見通しを持つことと新しい問題を見いだすことが必要であると考え，その場面での検証結果をまとめる。

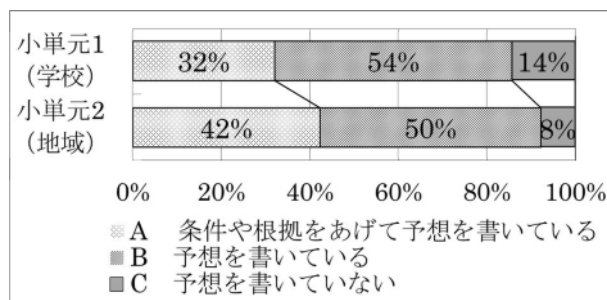
#### (1) 見通しを持つことについて

- ① 結果 ～小単元1と小単元2の見通しを持つ場面～

ア 予想について

a ルーブリックによる評価【図4】

予想を書いているA、B評価の合計が86%から、92%にあがっている。中でも、条件や根拠をあげて予想を書いているA評価は、32%から42%にあがっている。



【図4】「予想」についてのルーブリックによる評価

b 児童の様子

学校の防火設備を調べるときに、学習問題の予想として「(すぐに火が消せると) 思わない。でも場所によってちがう」(A評価)と書いている児童がいた。この児童は学習でわかったこととして、「一番火事の原因になりやすい給食室は、近くに消火器が7つもあったからびっくりした」とノートに書いている。

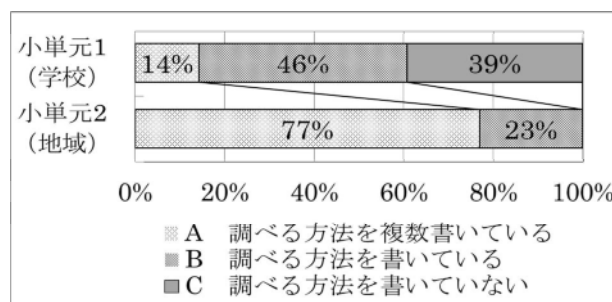
家の防火設備を調べるときには、学習問題の予想として「もえやすいところには(台所、しんしつ、おまいりするへや)ねつたんちきやけむりたんちきがあると思う」(A評価)としている。家で調べた結果も「しんしつ→けむりたんちき 台所→ねつたんちき、消火器」と調べていた。

イ 調べる方法について

a ルーブリックによる評価【図5】

調べる方法について小单元1(学校)では、調べる方法を書いていない児童が39%いた。しかし、小单元2(地域)では、全員が調べる方法を書いている。

また、複数書いているA評価が14%から77%にあがっている。



【図5】「調べる方法」についてのルーブリックによる評価

b 児童の様子

小单元1では、「火を消すものをさがす」(B評価)といった自分で探す活動を書いている児童がほとんどであった。小单元2では、「①自分の家の中や外を見る。②家族に聞く」(A評価)のように自分で探す活動と聞き取り活動と複数書く児童が多くなった。

## ② 考察

条件や根拠をあげて予想を書いているA評価の児童が増加している。前述したように、小単元1の予想では「場所によってちがう」と書いていた児童が、解決を通して得た「燃えやすい場所には消火器等が置かれている」という知識を使って、小単元2の予想では「燃えやすいところにあると思う」と書いている。

また、小単元2の「調べる方法」では、全員が調べる方法を書き、その内の77%の児童が複数の方法を書いている。この結果は児童の問題解決の選択肢が増えたことを示す。

以上のことより、「予想」と「調べる方法」について書き交流する手だては、解決のための見通しを持つ際に、有効であると考えられる。

「予想」を書くことは調べる内容を明確なものとし、「調べる方法」を書くことでより多くの選択肢を考えられるようになったと考察する。

また、「2 問題の特徴づけと表現」にて、個々で考えを持つ場面を設定し、その後、交流することや、小単元1で経験した問題解決のプロセスを再び生かせるように学習を組んだことも要因であろう。特に、「調べる方法」については、小単元1で行った方法を小単元2においても採用している児童が多い。実際に問題解決のプロセスを経験させることが有効であると思う。

## (2) 新しい問題を見いだすことについて（問題意識の連続）

### ① 結果

#### ○ 小単元1（学校）→ 小単元2（地域）

学校の防火設備を調べてわかったことを交流することで、火事が起きてもすぐに消す設備の存在や配置等の工夫に気づくことができた。そして、授業終盤、本時でわかったことを整理して学習を振り返ると、「学校は火事が起きてもすぐに消せることがわかったけど、じゃあ、家はどうなっているのかな」という新しい問題を多くの児童が見いだした。そこで、この新しい問題を生かして、次の小単元では地域（家）の防火設備を調べる学習問題を設定し、学級全体で問題を理解して学習が進められた。

#### ○ 小単元3（消防署）→ 小単元4（消防団）

消防署の人からの聞き取りをもとに、わかったことや思ったことを交流することで火事から人々を守る消防署の人の工夫や努力が明らかになった。さらに、教師は「消防署の人が困っていること」について話題を焦点化する発問をした。その方が次の小単元へつながる新しい問題を児童が見いだせると判断したからである。「消防署の人が困っていること」とは、「消防署分署には3人しか常駐しておらず、救急で出動すると

分署はだれもいない状態になる。もし、火事が起きると他の消防署の応援は 15～20 分を要する」ということである。このことは消防署の人との打ち合わせのとき、聞き取りの中で話していただくようお願いした。授業の感想では、「夜、3人が救急車にのっているときに別のところで火事が起こると 15～20 分もかかるから家は全部やけてしまうと思った」のように書く児童が数人いた。

このような児童の感想を紹介することで、「消防署の人が着くまでの 15～20 分の間、地域では何をしているのだろう」と問題を見いだす児童もいた。しかし、問題ととらえる児童は少ない様子であった。

その後、「消防署の人が到着するまでの時間に、地域の中でだれが何をしているのか」の点で話し合いが進み、児童から消防団の存在が出された。そこで、教師のねらいにあった消防団について調べる学習問題を設定した。

## ② 考察

小单元 1（学校）→ 小单元 2（地域）では、多くの児童が問題を見だし学級全体で理解し学習を進められた。理由として、次の 3 つが考えられる。

1 つ目に、学校は限られた場所であり、「他の場所はどうなっているのだろう」と考えやすいからである。2 つ目に、1 学期の「わたしたちのくらしを支える水」の学習で学校での水の利用を調べる活動後、家のことを調べる活動を行った経験が本单元でも生かされたからである。3 つ目に、地域の防火設備は身近であり自分にかかわる問題としてとらえやすいからである。

また、小单元 3（消防署）→ 小单元 4（消防団）では、問題を見だしていた児童が少なかった。少なかった理由として、次の 2 つが考えられる。

1 つ目は、消防署の人の工夫や努力によって「自分」が火事から守られているという実感が十分に持てなかったからである。消防署の人によって、怖い火事から守られている思いが強ければ強いほど、消防署の人がいないときの不安が児童にとっての問題になる。2 つ目は、「消防署の人の到着が 15～20 分遅れるとどういう事態を引き起こすのか」が児童にイメージしにくかったからである。時間の経過による火事の広がりや消防署の人の到着が 15～20 分遅れることを児童が結び付けられなかった。15～20 分遅れることによって、自分の家が火事ならどうなっているかを理解すれば、自分にかかわる問題となっただろう。

以上のことより、新しい問題を見いだすことは、わかったことが整理され、児童が納得できたときに可能となると思われる。また、問題を見いだすことの難しさも明らかとなった。児童が問題を見いだすために、事象を理解するための資料や焦点化するための言葉かけを考えていく必要があるだろう。しかし、問題を見いだす場面を比べたとき、小单元 1（学校）→ 小单元 2（地域）より小单元 3（消防署）→ 小单元 4（消防団）



の方が、学習事項が複雑にかかわり合うため、見いだすことが難しいと思われる。今回の新しい問題を見いだす学習の経験が次回には生かされると考える。

## 2 検証をもとにした授業プランの提案

「四日市モデル」に基づいた小学校社会科第4学年「わたしたちの町を守る防火の仕組み」の実践での検証を生かし、別单元である小学校社会科第4学年「ふせごう、交通事故や事件」での授業プランを提案する。学習指導要領における2つの单元の目標と内容は同じである。

まず、「わたしたちの町を守る防火の仕組み」では、「2 問題の特徴づけと表現」にて解決の見通しを持つことや「5 問題の熟考と発展」にて新しい問題を見いだすことが大切になることと、その手だてが有効となりうることが明らかになった。そこで「ふせごう、交通事故や事件」でも見通しを持つ場面では考えを書かせて交流し、問題を見いだす場面ではわかったことを整理させたい。

次に、「わたしたちの町を守る防火の仕組み」では新しい問題を見いだしにくい場面があった。そこで、「ふせごう、交通事故や事件」では「5 問題の熟考と発展」にて、資料を用意したり、言葉かけを工夫したりして新しい問題を見いだしやすくする。

また、「わたしたちの町を守る防火の仕組み」では、地域の一員として自分ができることを考え行動することについて扱う時間をあまり保障できなかった。「ふせごう、交通事故や事件」は自分ができることを考え行動に移しやすい单元であるので、この学習活動を位置づけることとする。

「ガイドブック」の書式に合わせた授業プランについては、p. 16 以降に掲載する。

## VI 研究のまとめ

本研究では、「四日市モデル」に基づいて小学校社会科の授業を行い、検証するとともに問題解決能力を育成する小学校社会科の授業づくりを提案した。

研究の成果と課題を次に記す。

### 1 研究の成果

第4学年「わたしたちの町を守る防火の仕組み」の授業実践を通して、「四日市モデル」に基づいた小学校社会科における单元のつくり方を示すことができた。特に、「2 問題の特徴づけと表現」で見通しを持つ場面、「5 問題の熟考と発展」で新しい問題を見いだす場面において適切な手だてを行うことが、子どもの問題意識が連続することに有効に働くことがわかった。

また、検証をもとにした授業プラン「ふせごう、交通事故と事件」を提案することができた。

本研究により、問題解決能力向上につながる授業づくりのためのポイントを示すことができたと考えられる。

## 2 研究の課題

本研究は、見通しを持つ場面、新しい問題を見いだす場面に焦点をあてて問題解決能力の育成について検証を行ったが、他の場面についても検証していきたい。

また、「四日市モデル」に基づく授業として、中学年の地域の調査活動や、聞き取り活動を中心とした授業づくりについて進めてきた。小学校社会科学習において、図書館やインターネットなどから資料を収集し、資料から問題解決のための情報を得ることを中心とした問題解決的な学習などもある。また、学年に応じて求められる力も変わる。主な学習活動が異なる単元や、学年の発達段階に応じた「四日市モデル」に基づく授業づくりを進めていきたい。

小

4

□■●小学校 社会科 第4学年■●□  
ふせごう、交通事故や事件

授業を進めるにあたって

**単元を貫く学習問題 「どうすれば事故（や事件）をなくせるのだろう」**

第1次「交通事故をなくすために、警察の人は、どんな取り組みをしているのだろう」

第2次「事故や事件をなくすために、地域の人々は、どんな取り組みをしているのだろう」

第3次「事故や事件をなくすために、自分たちができることは何だろう」

単元を貫く学習問題は「どうすれば事故（や事件）をなくせるのだろう」とする。事故は「怖い」「なくしたい」という思いが、単元を貫く学習問題の設定につながる。単元を通じて子どもが自分の問題とすることによって、社会の仕組みに関する理解が深まり、その学びから自分ができることを考え、行動する意欲を引き出すことになる。また、3つの小単元の学習問題はこの単元を貫く学習問題を具体化した問題であり、学習活動の中で児童とつくり出す。

○ **単元名 「ふせごう、交通事故や事件」**

○ **単元目標**

- ・警察の人や地域の人々などが、事故や事件から守る工夫や努力をしていることを理解する。
- ・地域社会の一員として、安全な生活の維持について考え行動しようとする。

○ **指導計画（全9時間）**

第1次 警察の人の仕事・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4時間

第2次 私たちを見守ってくれている人たち・・・・・・・・・・・・・・・・ 3時間

第3次 事故や事件をなくすために自分ができることを考えよう・・・・・・・・ 2時間

○ **問題解決能力向上のためのポイント**

「2 問題の特徴づけと表現」では、問題解決のための見通しを持つために「予想」と「調べる方法」を考え交流させる。

本単元での調べる方法は聞き取り活動が中心となるため、予想に対する答えが求められる質問を用意する。そのためには、どんな内容をどんな言葉で質問をしたらよいか、考える場を設定する。

「5 問題の熟考と発展」では、学習を振り返るとともに、新しい問題を見いだす。

そこで、第1次において第2次の学習問題を見いだすために、警察の人への聞き取りでは「地域の人々と連携して取り組んでいる」ことを児童に伝えてもらったり、警察の人と地域の人々がともに活動している写真を用意したりする。また、第2次において第3次の学習問題を見いだすためには、地域の人々への聞き取りの中で、「自分自身でも事故や事件にあわないように気を配って欲しい」という思いを伝えていただくようお願いする。

○ 指導の流れ

次	問題解決のプロセス	学習活動	指導上の留意点
1	<p>第1プロセス 問題の理解</p>	<p>○事故現場の写真を見て気づいたことや思ったことなどを交流する。</p> <p>○市内の交通事故件数や事故の原因について表やグラフから読み取る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>単元を貫く学習問題「どうすれば交通事故がなくせるのだろう」</p> </div> <p>○警察の人の取り組みについて調べる学習問題を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>学習問題 「交通事故をなくすために、警察の人は、どんな取り組みをしているのだろう」</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート等で児童の実態を把握し、提示する写真や資料を選択する。</li> <li>・交通事故を身近に感じる部分に着目させる。</li> <li>・学習問題につながる気づきや疑問を整理する。</li> </ul>
	<p>第2プロセス 問題の特徴づけと表現</p>	<p>○知っていることについて交流する。</p> <p>○予想と調べる方法をノートに書き交流する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報を分類、整理する。</li> <li>・これまでの解決方法を振り返らせる。</li> </ul>
	<p>第3プロセス 問題の解決</p>	<p>○学習問題について教科書、副読本などで調べる。</p> <p>○警察の人に、質問する内容を考える。</p> <p>○質問することを交流し整理する。</p> <p>○警察の人に、質問をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・警察の人から、交通事故だけでなく、次の2点について話してもらう。 <ul style="list-style-type: none"> <li>①事件に対する取り組み</li> <li>②地域との連携</li> </ul> </li> </ul>
	<p>第4プロセス 解決方法の共有</p>	<p>○調べてわかったことや、思ったことを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「110番したら、通信指令室からパトカーなどに連絡が行くんだ」</li> <li>・「いろいろなところで、交通安全教</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・警察の人の年間の活動がわかる資料を提示する。</li> </ul>

		<p>室もされているんだ」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「年間の活動をみると地域の人と連携している活動もあるね」</li> </ul>	
	<p><b>第5プロセス</b> 問題の熟考と発展</p>	<p>○わかったことを整理することで、さらに調べてみたいことを見いだす。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登下校を見守ってくれている地域の人々の写真を提示する。</li> </ul>
2	<p><b>第1プロセス</b> 問題の理解</p>	<p>○もっと調べたいことを学習問題に設定する。</p>	
	<p>学習問題 「事故や事件をなくすために、地域の人々は、どんな取り組みをしているのだろう」</p>		
	<p><b>第2プロセス</b> 問題の特徴づけと表現</p>	<p>○知っていることについて交流する。</p> <p>○予想と調べる方法をノートに書き交流する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報を分類、整理する。</li> <li>・これまでの解決方法を振り返らせる。</li> </ul>
	<p><b>第3プロセス</b> 問題の解決</p>	<p>○学習問題について教科書、副読本などで調べる。</p> <p>○登下校を見守ってくれている地域の方に、質問する内容を考える。</p> <p>○質問することを交流し整理する。</p> <p>○地域の方に質問をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方には、グループごとに一人ずつ入っていただく。</li> <li>・地域の方に、「交通事故にあわないように気を配って欲しい」という思いも話してもらおう。</li> </ul>
	<p><b>第4プロセス</b> 解決方法の共有</p>	<p>○調べてわかったことや、思ったことを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「交通事故が多いところに立って来ていたんだね」</li> <li>・「犯罪にあわないためにも見守ってくれていたんだ」</li> <li>・「わたしたちにできることは何だろう」</li> </ul>	

	第5プロセス 問題の熟考と発展	○わかったことを整理することで、 考えたいことを見いだす。	・地域の人々の子どもたちへの思いに 焦点化させる。
3	第1プロセス 問題の理解	○もっと考えたいことを学習問題に 設定する。	
			学習問題「事故や事件をなくすために、自分たちができることは何だろう」
	第2プロセス 問題の特徴づけと表現	○自分たちができることは何か交流 する。	・これまでの学習でわかったことや自 分たちができることを新聞にまとめ ることを伝える。
	第3プロセス 問題の解決	○学んだことや自分たちができるこ となどを新聞にまとめる。	
	第4プロセス 解決方法の共有	○学級全体で、新聞をもとに書いた ことを交流する。	・新聞は、他のクラスや学年が見られ るところに掲示する。
	第5プロセス 問題の熟考と発展	○学習の振り返りをする。	

[引用文献]

- 北 俊夫・澤井陽介(2011)「新社会科“調べ考え表現する”ワーク&学び方手引き4年」明治図書 p.9
- 国立教育施策研究所(2007)「特定の課題に関する調査(社会)」p.65 p.62
- 文部科学省(2008)「小学校学習指導要領」文部科学省 p.34
- 文部科学省(2008)「小学校学習指導要領解説社会編」東洋館出版社
- 四日市市教育委員会(2011)「第2次四日市市学校教育ビジョン」四日市市教育委員会
- 四日市市教育委員会(2013)「問題解決能力向上のための授業づくりガイドブック 四日市モデル」四日市市教育委員会

[参考文献]

- 大阪府教育センター(2014)「大阪の授業 STANDARD」
- 神奈川県総合教育センター(2008)「『問題解決能力』育成のためのガイドブック～『習得・活用・探究』への授業づくり～」
- 高知県教育センター(2014)「Professional Teacher's Notebook」
- 高浦勝義(2004)「絶対評価とルーブリックの理論と実際」黎明書房
- 高浦勝義・松尾知明・山森光陽(2006)「ルーブリックを活用した授業づくりと評価 小学校編」教育開発研究所
- 藤井千春(1996)「問題解決学習のストラテジー」明治図書
- 的場正美・池野範男・安野功(2013)「社会科の新しい使命～『小学社会』のめざすもの～」日本文教出版
- 三重県教育委員会(2014)「授業改善モデル【小学校版】」三重県教育委員会事務局小中学校教育課
- 文部省(1951)「小学校学習指導要領社会科編(試案)」文部省

第1部 四日市モデルを理解する

(1) 本ガイドブックの目的

本ガイドブックは、子どもたちの問題解決能力を向上させるために、授業や様々な教育活動の中で、どのようなプロセスを踏みながら学習を進めればよいのか、何に留意して指導したらよいのかをまとめたものです。  
また、このガイドブックで示すプロセスを適用した学習指導により、国語科、算数・数学だけでなく、各教科においてスキルアップが図られると考えます。

(2) 本ガイドブックの構成

本ガイドブックは、問題解決能力向上に向けた学習活動のプロセスや授業改善のポイントとともに、具体的な実践事例を紹介しています。

問題解決能力と問題解決能力向上のための5つのプロセス

問題解決能力向上のための5つのプロセスの展開例

**問題解決能力向上の実践事例**  
 小学校 算数科(2年, 3年, 4年, 5年) 国語科(1年, 3年, 5年)  
 中学校 数学科(1年, 2年, 3年) 国語科(1年, 2年, 3年)



(3) 本市が考える問題解決能力とは

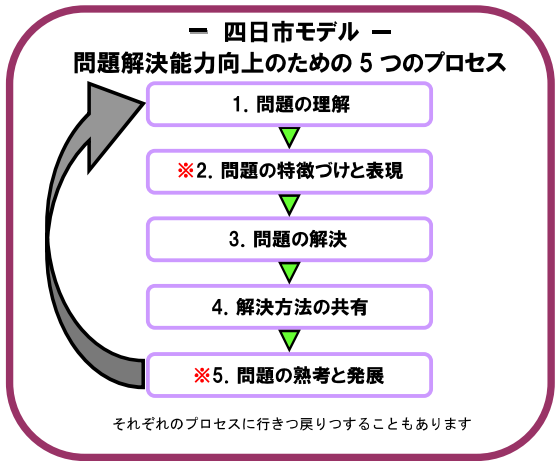
PISA 型問題解決能力は、OECD(経済協力開発機構)によって、「問題解決の筋道が瞬時には明白でなく、応用可能と思われるリテラシー領域あるいはカリキュラム領域が数学、科学または読解のうちの単一の領域だけには存在していない、現実の領域横断的な状況に直面した場合に、認知プロセスを用いて、問題に対処し、解決することができる能力」と定義されています。  
これを受けて、本市では、「問題解決能力とは、解決の道筋がすぐには明らかでない問題に対し、身につけた知識・技能や収集した情報、体験等を活用し、問題を解決していく力」と定義しました。  
問題解決能力は、子どもたちの将来の学習のため、社会的・職業的実践力を発揮して社会に貢献するため、また、社会人としてよりよい成長をするための基盤となると考えます。

(4) 問題解決のプロセス

問題解決能力向上のためには、問題解決のプロセスでの学習活動が大切であるという立場に立っています。  
問題解決能力を向上させるためには、子どもたちが持つ既有的知識・技能を活用して、問題を理解し、解決方法を導きだし、実行するというプロセスが必要です。このプロセスの中で、子どもたちは、新たな発見と新たな問題を見いだしながら、学習を進めていきます。そして、教師が、一つ一つのプロセスごとに、適切な指導をすることによって、子どもたちは、新しい知識・技能、思考力・判断力・表現力を習得し、問題解決能力の向上へ結びつくことになると思います。  
本ガイドブックでは、各プロセスでの子どもの活動と指導上の留意点を示しながら、学習活動の在り方を整理し、問題解決能力向上を図るようにしました。

(5) 問題解決能力向上のための5つのプロセス(四日市モデル)

本市では、問題解決のプロセスとして、次の5つのプロセスを考えました。この5つのプロセスを「四日市モデル」とします。  
特に、「※問題の特徴づけと表現」、「※問題の熟考と発展」のプロセスは、本市が重点を置いているプロセスです。



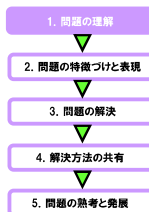
1 第1プロセス 問題の理解

問題と出会い、問題を認識し、既有的知識と比較したり、関連づけたりする中で何を答えるのかを理解するプロセスです。  
**○第1プロセスにおける子どもの活動○**

- 既有的知識を利用し、与えられた文章・図・表を理解する。
- いろいろな資料を比較したり、関連づけたりする。
- 問題解決のために、解決すべきことを理解する。

**○指導上の留意点○**

- 子どもの興味・関心や既有的経験等、実態を把握する。
- 問題との出合わせ方を工夫し、子どもの問題意識や解決しようとする意欲を喚起する。
- 疑問点や矛盾点、不思議だと思ふことを、子どもに気づかせるよう工夫する。
- 問題を理解するためのヒントとなる既有的知識を、段階的に準備する。



2 第2プロセス 問題の特徴づけと表現

問題解決のために情報を収集したり、整理・分析したりして、解決のための見直しを持つプロセスです。  
**○第2プロセスにおける子どもの活動○**

- 問題を表・グラフ・記号・文章等に表現する。
- 比較・分類・関係づけなどをして、情報を整理する。
- 解決のための予想や仮説を立てる。
- 解決のために必要な情報を収集する。
- 様々な角度から解決方法を考える。

**○指導上の留意点○**

- 問題の特徴づけのヒントとなるような資料を準備する。
- 情報を収集・活用できるよう人材や学習環境を整える。
- 比較・分類・関係づけなどの情報の整理の仕方について助言する。
- 問題を表・グラフ・記号・文章等に表現できるように助言する。
- 子どもの意思を尊重しながら、解決の方策について様々な角度から助言をする。



3 第3プロセス 問題の解決

これまで考えた方法や見通しで問題を解決するプロセスです。  
**○第3プロセスにおける子どもの活動○**

- 仮説や計画に基づいて問題を解決する。
- 目的を明確に持って問題を解決する。
- 考えられる様々な方法で問題を解決する。

**○指導上の留意点○**

- 個々の問題解決の進捗状況に応じ、指導する。
- 目的を意識させながら、問題を解決させる。



4 第4プロセス 解決方法の共有

解決して得られたことや解決方法を他の人と交流し、自分の考えや解決方法を見直したり、深めたりするプロセスです。  
**○第4プロセスにおける子どもの活動○**

- 他の人の解決方法を知り、自分の解決方法との共通点・相違点を理解する。
- 他の人の意見を参考にして、自分の考えや解決方法を見直したり、深めたりする。

**○指導上の留意点○**

- 解決して得られたことだけでなく、解決方法に着目した交流にする。
- 互いの共通点・相違点がわかるように交流のポイントを明確にする。



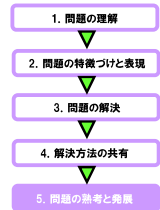
5 第5プロセス 問題の熟考と発展

解決して得られたことや解決方法の正しさを確認し、さらに新しい情報を求めたり、次の問題に活用したりするプロセスです。  
**○第5プロセスにおける子どもの活動○**

- 解決して得られたことや解決方法を振り返り、正しいことを確認する。
- 解決方法を検討し、さらに新しい情報や問題点・視点を求める。
- 解決して得られたことや解決方法を次の問題に活用する。





**○指導上の留意点○**

- 新たな問題を準備し、問題解決のプロセスを再度深めるようにする。
- 得られたことや解決方法の正しさを検証できるような様々な方法を準備しておく。
- 広い視野で見ることや違った方向から考えさせるようにする。
- これまでの問題解決の過程で得た方法を活用させる。









- 単元名「わたしたちの町を守る防火の仕組み」
- 指導の流れ

次	問題解決のプロセス	学習活動	指導上の留意点
1	第1プロセス 問題の理解	<p>○火事に関するビデオを見て気づいたことや思ったことを交流する。</p>  <p>○火事の怖さを理解し、「わたしたちの町を守る防火の仕組みは、どうなっているのだろう」という単元を貫く学習問題を見いだす。</p> <p>○子どもたちの思いをもとに学級全体で学習問題を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>学習問題 「学校は、どこで火事が起きてもすぐに火を消せるようになっているか」</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート等で児童の実態を把握し、提示する資料を選択する。</li> </ul>
	第2プロセス 問題の特徴づけと表現	<p>○予想と調べる方法をノートに書き交流する。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期に社会科の授業で校舎図を使用したことを振り返らせる。</li> </ul>
	第3プロセス 問題の解決	<p>○校舎図をもって学校の防火設備を調べる。</p>  <p>○調べた結果と結果からわかることを考えて、学習問題に対する結論をノートに書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査のマナーを確認する。</li> <li>・理由についてもノートに書かせる。</li> </ul>
	第4プロセス 解決方法の共有	<p>○防火設備を調べた結果と結果からわかることを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校の消火器を調べたら、消火器がどの階にも置いてあったから、学校のどこで火事が起きても対処できるようになっていると思う」</li> </ul> 	

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「給食室の消火器の数を数えたらたくさんあったから、特に火事になりやすい火を使うところにたくさん消火器を置く工夫がしてあると思う」</li> </ul>	
	<p><b>第5プロセス</b> 問題の熟考と発展</p>	<p>○学校の防火設備の工夫が明確になったことから、地域の防火設備がどうなっているのだろうかという新しい問題を見いだす。</p>	
2	<p><b>第1プロセス</b> 問題の理解</p>	<p>○もっと調べたいことを学習問題に設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>学習問題「家で火事が起きても、すぐに消せるようになっているか」</p> </div>	
	<p><b>第2プロセス</b> 問題の特徴づけと表現</p>	<p>○予想と調べる方法をノートに書き交流する。 ○次時までには自分の家の周りについて調査してくる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家だけでなく、地域の防火設備についても考えさせる。</li> <li>・学校の防火設備を調べた経験を振り返らせる。</li> </ul>
	<p><b>第3プロセス</b> 問題の解決</p>	<p>○調査して、わかったことを交流する。</p>  <p>○学級全体で校外に行き、さらに調べたいことを調査する。</p>   <p>○調べた結果と結果からわかることをノートに書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真やイラストなどを拡大して提示するために実物投影機を用意する。</li> <li>・校外に出る際は、安全に配慮させる。</li> </ul>
	<p><b>第4プロセス</b> 解決方法の共有</p>	<p>○調べた結果と結果からわかることを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分たちの住んでいる地区では消火栓やホース格納箱があったよ」</li> </ul>	

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「地域の人が言っていたけど、消火栓やホース格納箱は等間隔にあるらしいよ。すぐに消せそうだね」</li> </ul> 	
	<p><b>第5プロセス</b> 問題の熟考と発展</p>	○防火設備は、だれがどのように使っているのかと問題を見いだす。	・消防署の人に焦点化する。
3	<p><b>第1プロセス</b> 問題の理解</p>	○もっと調べたいことを学習問題に設定する。	
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           学習問題 「わたしたちの町の消防署の人はすぐに火を消すためにどんな工夫や努力をしているのだろう」         </div>	
	<p><b>第2プロセス</b> 問題の特徴づけと表現</p>	○予想と調べる方法をノートに書き交流する。	・これまでの解決方法を振り返らせる。
	<p><b>第3プロセス</b> 問題の解決</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教科書やビデオ教材などで消防署の人の工夫や努力を調べる。</li> <li>○消防署の人に質問する内容を考える。</li> <li>○質問することを交流し整理する。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>○消防署の人に考えた質問をする。</li> <li>○消防車などの見学をする。</li> </ul> 	  <ul style="list-style-type: none"> <li>・消防署の人には、困っていることについても話してもらおう。</li> </ul>
	<p><b>第4プロセス</b> 解決方法の共有</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○わかったことや思ったことをノートに書く。</li> <li>○調べてわかったことや思ったことを交流する。</li> <li>・「訓練を長時間もするってすごいな。わたしならできないなあ」</li> <li>・「点検をしていつ出動になってもいいようにしているのだね」</li> <li>・「消防署の人が救急車で出動した後、わたしたちの町に火事が起きたらどうなるのかな」</li> </ul>	
<p><b>第5プロセス</b> 問題の熟考と発展</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「他地区からの消防署の人が到着するまでの時間に、地域の中でだれが何をしているのか」という問題を見いだす。</li> <li>・「消防団がいるって聞いたことあるよ」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消防署の人が困っていることについて注目させる。</li> <li>・消防団の人に焦点化する。</li> </ul>	

<p><b>第1プロセス</b> 問題の理解</p>	<p>○さらに調べたいことを学習問題に設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>学習問題「わたしたちの町の消防団について調べよう」</p> </div>	
<p><b>第2プロセス</b> 問題の特徴づけと表現</p>	<p>○予想と調べる方法をノートに書き交流する。</p>	<p>・消防署の人について調べた経験を振り返らせる。</p>
<p><b>第3プロセス</b> 問題の解決</p>	<p>○教科書やビデオ教材などで消防団について調べる。</p>  <p>○消防団の人に質問する内容を考える。</p>  <p>○質問することを交流し整理する。</p> <p>○消防団の人に考えた質問をする。</p>   <p>○消防団の倉庫や消防車などの見学をする。</p> <p>○わかったことや思ったことをノートに書く。</p>	<p>・校区の消防団の訓練の活動内容や消防団の方の様子がわかるビデオを撮影し用意する。</p> <p>・消防団の人には、消防団の活動で大変なことについても話してもらう。</p> 
<p><b>第4プロセス</b> 解決方法の共有</p>	<p>○わかったことや思ったことを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「携帯に連絡が入ったら仕事をやめて火事の現場にかけつけてくれるんだ」</li> <li>・「休みの日に集まって訓練しているんだ」</li> </ul>	
<p><b>第5プロセス</b> 問題の熟考と発展</p>	<p>○消防団長の思いについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「消防団の活動は大変なのに、消防団長はどうして消防団の活動を続けているのだろう」</li> <li>・「自分たちの町を自分たちで守りたいと思っているのかな」</li> <li>・「当たり前のことと思っているのかな」</li> </ul> <p>○自分たちができることを考え交流する。</p> <p>○学習の振り返りをする。</p> 	<p>・消防団長のプロフィールや話をまとめたものを提示する。</p>

## 検証に使ったルーブリック

小単元	場面	学習活動における評価規準	評価資料	評価基準		
				A (3)	B (2)	C (1)
【小単元1 学校の防火設備を調べよう】 学習問題 「学校は、どこで火事が起きてもすぐに火を消せるか」	予想する	学習問題または、調べる方法に対する予想ができる。	児童の記述	学習問題または、調べる方法に対する予想を条件や根拠をあげて書いている。	学習問題または、調べる方法に対する予想を書いている。	学習問題または、調べる方法に対する予想を書いていない。
	調べる方法を考える	学校では、火がすぐに消せるように何をしているか調べる方法を持つことができる。	児童の記述	学校で火事が起きたとき、すぐに火を消せるようになっていないか調べる方法を、二つ以上書いている。	学校で火事が起きたとき、すぐに火を消せるようになっていないか調べる方法を、書いている。	学校で火事が起きたとき、すぐに火を消せるようになっていないか調べる方法を、書いていない。
【小単元2 地域の防火設備を調べよう】 学習問題 「家で火事が起きたときの対策は大丈夫か」	予想する	学習問題または、調べる方法に対する予想ができる。	児童の記述	学習問題または、調べる方法に対する予想を条件や根拠をあげて書いている。	学習問題または、調べる方法に対する予想を書いている。	学習問題または、調べる方法に対する予想を書いていない。
	調べる方法を考える	家や地域では、火がすぐに消せるように何をしているか調べる方法を持つことができる。	児童の記述	家で火事が起きたとき、すぐに火を消せるようになっていないか調べる方法を、二つ以上書いている。	家で火事が起きたとき、すぐに火を消せるようになっていないか調べる方法を、書いている。	家で火事が起きたとき、すぐに火を消せるようになっていないか調べる方法を、書いていない。

**問題解決能力を育成する小学校社会科学習の研究**  
－「四日市モデル」に基づいた授業づくり－

〔研究協力員〕 四日市市立保々小学校 教 諭 藤井 大  
〔執 筆 者〕 四日市市教育委員会 研 修 員 齋藤 徳顕  
〔指導・助言〕 国立教育政策研究所 総括研究官 松尾 知明

---

---

研究調査報告 第395集

**問題解決能力を育成する小学校社会科学習の研究**  
－「四日市モデル」に基づいた授業づくり－

発 行 平成27年3月20日  
発行所 四日市市教育委員会教育支援課  
四日市市諏訪町2番2号  
電話 (059) 354-8149  
FAX (059) 359-0280

---

---